

理工学文献 センター への道

理工学部の近況
について

☆

'65. 8. 15

高 宮 秀 夫

(1) 新図書室の開設と 新図書館の建設

六五年三月、機械工学・電気工学・電気通信の三学科が、西大久保の新校地へ移ったのを機に、理工学部図書室もそこへ移転し、一〇号館の二階に一一〇坪の面積を使って、新たに店開きをした。

当学部では前々から、原則として各学科が図書室をもち、それぞれ教員・学生に直接サービスを行っていた。そして

当図書室は、図書室と称してはいたものの、いわばその後方にいて、図書館の協力を得ながら、主として受入・整理業務を、集中的に行っていたのである。

ところがこの度の移転によって、三学科の所管資料を吸収し、従来の直轄資料（主として当学部に対する寄贈書）と併せて、これらを直接管理することになった（吸収済みの分、目下約二万冊）。そしてこれらの資料について、案内・閲覧・貸出・複写のサービスを、去る四月に開始したのである。

この新図書室は、従来の体制からみれば、移転三学科の図書室ともいい得るが、他面これは学部全体の研究用図書室であり、この夏、三号館地階から二号館地階へ移した学生読書室とともに、理工系新図書館の、モデルとも基礎ともなるべき役割をもっているのである。

ここにいう理工系新図書館とは、六七年春に竣工が予定されている一号館に新設するものことであり、これによって、各学科の図書室を一個所に統合し、全学部の雑誌や図書などを、共同で使うという当学部年来の構想が、ようやく実現することになる。これからの二年間、この新図書館のよりよき運営をめざして、さまざまな試みや準備をさらに重ねてゆかなければならないわけである。

(2) 図書費配分手続の変更

そのような準備の一環として、図書購入予算（以下「図書費」と略す）の問題がとり上げられたのは、当然である。

当学部には、学部長の諮問機関として、各学科主任ならびにこれに準ずる者によって構成される「主任会」があり、毎週定例会議を開いて、日常的な問題を協議する（教授会から委任をうけた問題について、正式に議決することもある）。昨年度までの最近の慣例では、主任会の諮問機関である「図書委員会」が、図書費配分の原案をつくって主任会に提出し、そこで審議決定したものであったが、今年度はまずこの点が大きく変わった。すなわち、図書費全体の配分は主任会自身が立案・決定し、そのうちの「共通費」（後述）の運用計画（集書構成の立案、購入資料の選択）を、図書委員会が決定するという事になったのである。

3 図書費配分上の改革

さて、今年度の図書費配分は、どのようなものであるのか。これは一学部内の問題に過ぎないといってしまうは、まさにそのとおりであり、それまでであるが、全学的観点からみても、意味のないことではないと思われるので、あえて報告に及ぶ次第である。

本学部のならわしとして、図書費は、「科別図書費」ともいべき、各学科に配分される部分と、「共通費」といわれている、学部一本で使われる部分とに分けられてきた。そして金額としては、各科配分額の合計の方が、共通費よりも圧倒的に多かったものである。たとえば、前年度の予算でみると、前者が図書費総額の九五パーセントを越えるのに対して、後者は五パーセントを割っていた。ひと言でいうならば、この関係を逆にしたのが、今年度配分の特徴である。数量的にはそれほど極端ではないが、前者は

全体の三二パーセントに下がり、後者は同じく六八パーセントに上がっている。その時の主任会で、提案の趣旨は満場一致で支持されたのであるが、これは単に数字を示すだけでなく、その使い途について、具体的な、しかも画期的な方針が示されたからこそ、あり得たものである。それではこの共通費でまかなうべきものは一体何か。

学術専門図書館の場合、大体においてそうであるが、特に理工系についていえば、それは雑誌類である。続いて叢書、あるいは索引・抄録などの文献検索用資料や、データ・ブック、ハンドブックなどを含めた参考図書類がある。学部当局から示されたものは、すなわちこれであった。中でも特に雑誌類を重視し、従来各科で継続購入してきたものを、共通費によって一括購入し、広く「共同利用」の場におこうというのが、その提案の眼目であったわけである。

たとえば一科当り四〇万円（昨年度）そこそこに分割された予算では、まとも

つた高額のものは買えないし、集書構成上の全般的な調整がない限り、もれが出る一方、必要以上の重複も起こる。

昨今の傾向として、専門分野がますます分化するとともに、発表される文献の量は著しく増大し、またその反面、境界領域や関連分野がますます拡大してゆくのは周知のことである。

このような情勢のもとでは、個々の研究者が必要な資料をすべて手もとにおくということとは、もはやできない。やはり予算は一本化し、それによる購入資料の利用を共同化してゆく以外に、とり得る道はなさそうである。

もとより急激な変革の際には、常に問題がつきまとう。この主任会で指摘されたのは、次の諸点であった。

(一)各科配分予算の中から、雑誌類の購入に当てられていた金額には、科によってかなりの不均衡があった。(二)従来で購入状況をそのまま認めたかのような移行のしかたは、妥当でない。速やかに資料選取上の調整を行なうべきである。(三)各

科配分額が専任教員一人当り一万円というのでは、昨年度のそれを下回る場合がある。四今度の場合、共通費では雑誌類の購入が精一杯で、叢書や参考図書まではまかなえないのではないか、など、など。これらの諸問題については、それぞれ弾力的なとり扱いがとられることになったが、中でも今後購入すべき雑誌類の全面的再検討が、重要課題としてとり上げられ、これをこの九、一〇月に、図書委員会が行なうよう委任されたのである。

(4) 部局図書室充実の必要

図書行政上留意しなければならないひとつの問題点は、研究者各個に対して、大学や国などから与えられる補助と、図書館機能としての文献サービスとの峻別であろう。当大学での前者の例としては、「教員図書費」による研究用資料の購入があり、また前述の「図書費」を各教員に割り当て、それによって購入した図書に割当をそれぞれに認めるとすれば、こ

れも前者の例になるが、これらは何れも図書館サービスとは異質のものである。

このような方式の長所は、購入する資料を研究者自身が自由に選び、かつこれを常に手もとにおくことができることにあると思われるが、この方式は前にも述べたように限界を免れ得ない以上、これとは別に、組織的な図書館活動がなければならぬ。研究者の求める文献を効果的に探し出し、案内し、提供してゆく作業が、資料の集中管理に対応して行なわれなければならないのである。

結局、私たち図書館員としては、独善や自己満足に陥ることを戒めながら、利用者のために、実際に少しでも役立つ仕事を積み上げてゆかなければならない。そして当大学として、図書行政上、いま肝要なことは、前述のような趣旨での部局図書室の充実であり、部局の中に根をおろした図書館サービスの確立であることとを、理工系図書館建設の途上において、思わないわけにはいかないのである。

前述の報告を書いたから、すでにかなりの月日がたっているのです、その後の経過について、若干の補足をさせていたきたい。

(1) 雑誌選択上の調整

前頁中段でふれたとおり、雑誌類の集書構成上の全面的再検討を、図書委員会が行なうというとり決めにもとづいて、同委員会は六五年六月から一〇月にかけて、その仕事にとり組んだが、これはおおよそ次のようなものであった。

(A) 調整の方法

次の三方法を総合的に適用した。

- (a) 六五年当時、各学科で購入していた雑誌の誌名一覧をつくり、そのタイトルごとに所蔵個所を記入して、重複の状況を明らかにする。この重複については、避け得るものだけ避け、避け得るものだけ避けてゆくという方向で、所蔵学科の図書

委員が話し合う。

- (b) 右のリストの他に、分野別にタイトルをまとめたリストをつくり、そのような角度から過不足を検討する。

- (c) 各学科から、新規購入希望と、購入中止希望のリストを提出してもらい、これを検討する。

(B) 調整の結果

洋雑誌で三〇種三一部、和雑誌で一五種一五部の購入を、六五年分限りでとり止め、この価格三六万六五〇〇円を他へふり向けることにより、新規に洋雑誌四六種、和雑誌六種を、六六年分から購入することにした。

なお購入を中止した中で、重複をとり止めた分は、洋雑誌一六種一七部、和雑誌九種一三部であった。当学部が戸塚と西大久保とに分かれており、しかも各学科分立の意識が根強く残っている段階では、重複の是正にはやはり限度があり、むしろ中には必要妥当な重複もあると思われる。

なお他に、ある学科では購入を止めた

といったものでも、それが当学部の一部しかないものであれば、引き続き購入して「学部図書室」におくことにした。

(2) 六六年度図書費の配分

各料配分類よりも「共通費」を大きくしてゆく、という六五年度の図書費配分方針については、本稿第三節初めに報告したが、六六年度はこの方向がさらに強化徹底された形になった。

つまり、大学院理工学研究科ならびに理工学部に対して、本部から配分される図書標本購入費と、図書館に配分される同費の中で、当学部割り当てられる分の一切が、各学科に再配分されることなく、一括して「共通費」として使われることになったのである。

これは新図書館のための図書費が用意されたことを意味するが、研究者に対する図書館サービスの質・量の向上に伴うものでなければと自戒する次第である。

(本学大学院理工学研究所図書係)